

# 巣鴨信用金庫【東京都】



所在地 東京都豊島区巣鴨 2丁目10番 2号

預金量 1兆7,783億円 (2018年 3月)

店舗数 41店舗

## 伴走型支援での取り組み

知財の視点から取引先へ提案を行う体制を、

3年間の伴走型支援で構築。

1 年目

知財ビジネス評価書等を活用しながら、取引先であるパル・ユニット株式会社様の実態把握・課題抽出等を実施。

2 年目

当庫職員が知財金融に取り組みやすくなるよう、営業訪問時に活用できるチラシを開発。

昨年度の知財金融  
フォーラムで  
事例紹介しました

3 年目

知財金融の取り組みを庫内で広めるべく、複数の視点を集めてJ-PlatPatを活用した実態把握研修を実施。  
研修後は、5社を対象として実際に実態把握・ヒアリングを実施。

## 実施した研修の様子



知財研修の取り組み  
参加支店数：16支店  
参加職員数：153名

参加者の声：

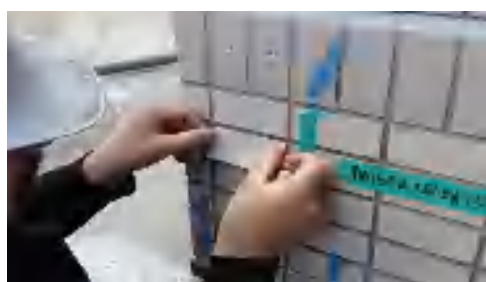
J-PlatPat を活用することで知財に対する認識を深めることができました。研修内容を実践的に取り入れ知財を切り口とした「セールス手法」を自分の武器として確立したい。

## 伴走型支援の成果

### パル・ユニット株式会社 × 知財経営

当社は、外壁補修工事オリジナル工法施工社であり特殊オリジナル機械および製品販売社でもある、両輪を備え持つ法人です。タイル施工のノウハウを活かして修理工具開発を行い知財経営を積極的に行っています。

#### パル・ユニット様の特許製品等



**シーファイン**：建物の持つ風合いや価値を崩さず周辺タイルと同化させるため、張り替えの違和感が全くないのが特徴。高層ビルでも極めて安全性の高い工法です。



**ハンドスモーター**：モルタル・タイル等のひび割れ補修工法。作業性が抜群に良い工法です。一般的エポキシ樹脂の臭いがほとんどないため、室内での補修に適しています。

現場で社長自ら体験したり、職人から要望を聞き取ったりして「こんなあったらいいね」や「アイデアやノウハウ」を特許化しています。現場でも多く使われ、一度職人さんが使用するとそのリピート率は高く、商品名で選ばれるより「形状や操作性」で圧倒的な支持を得ています。

## 伴走型支援の成果

### パル・ユニット株式会社 × 知財経営

白井社長様へのインタビューを行いました。知的財産経営について、白井社長の考え方や過去を振り返り「中小企業にとっての知的財産」の重要性を話してもらいました。

#### **1、知的財産（特許）にこだわる理由は？**

独立する前、サラリーマン時代に建築工法を生み出しましたが、知的財産で守らずに放置していました。その結果、他社にその工法の特許を取られてしまったことがあり、知的財産の重要性を感じました。

#### **2、中小企業に知財は必要か？**

特許申請すると「金銭的な負担」がかかり、中小企業には重たいと感じることもあります。“特許（知的財産）”だけ取得すれば・・・という考え方ではダメだと思います。当社の特許は、業界の流れや様々な仕事の組み合わせの中で取得することで活かされていると感じます。知財がないと「中小企業は何も残らない」と個人的には思っています。従来の売り方や交渉を繰り返すだけでは「価格競争・仕事の取り合い」が起こり立ち行かなくなると思っています。腕のいい職人がいても全員が同レベルではありません。今ある仕事の中で変化させて「知財」を見つけて取得していく、手の届く範囲の新規性を発見して特許権化していくことが必要ではないかと思っています。

#### **3、知的財産経営（売上や利益に知財は関連性があるか）**

約10年前は知的財産（特許）取得はおそらくしていなかったと思います。売り上げが伸びず、価格交渉では単価の引き下げ、担保も無い時代でしたが、思い切って「大口受注先との付き合いを見直し、オリジナル・独自」にこだわった製品開発を行い、積極的に知的財産（特許）の取得に踏み切りました。また“支えてくれた従業員”も当社の重要な知的財産ではないかと思っています。しかし、「積極的に特許取得しています」といったセールスを行ったわけではなく、取引先から聞かれると「オリジナルです。とっています（特許）。」と告げるぐらいでした。

## 伴走型支援の成果

会社の方針転換で積極的に特許を取得するようになってから3年経過した頃「売上・利益」とも上がっていると感じるようになりました。大口取引を見直し、知財活用を考えた時点が、ターニングポイントだと考えます。担当税理士から「社長、そろそろ自社ビルを購入したら」と言われたときに「売上・利益」を実感しました。

### 巣鴨信用金庫としての伴走型支援

#### **支援事業全般を通して**

中小企業には潜在的に知的財産が眠っていると実感しました。特許庁の本事業があったことで知的財産をお客さまへご案内や積極展開することができたと思います。

#### **現状、パル・ユニット(株)様と弊金庫の取り組み**

弊金庫は、産学連携で製品造り、事業承継のお手伝いを行っています。知財経営は事業承継を行っていくには必須であると感じています。お客さまは、現在も特許取得に対し積極的です。専門家と特許取得を通して、お客さまからのビジネスモデルの相談を一緒に考えています。

### 取引先5社 ← 支店職員による評価・提案

J-PlatPatを活用し、支店職員が取引先5社を分析

取引先における技術の具体的な特徴や、その技術を開発するに至った背景、同種の技術開発に取り組んでいそうな企業の存在有無等を把握できました。

分析結果から得られた仮説を基にしてヒアリング

取引先の強みが生まれた背景や、現状抱えている課題、社内体制の状況、提案すべき内容やその優先順位等を整理できました。

今後、具体的な支援提案へ…

知財を活かすビジネスモデルを一緒に考えることを第一として、当庫オリジナルの提案を実施予定しています。